



植物が与えてくれる「癒し」と「励み」

リ オリガ (外国語教育)

私は小さい時から植物に囲まれ育ってきました。両親は小麦の品種改良を専門としている研究者だったため、両親の影響で物心がつく頃から家に沢山の鑑賞植物がありました。楽しそうに植物の世話をしている母の表情を今も鮮明に覚えています。そして、春になると、家庭菜園の季節が始まるという毎年の記憶もあります。当時はその楽しさをよく分からず、週末に家庭菜園の仕事を手伝わされることに大変抵抗がありました。「遊びたいのにな～家庭菜園なんかなくていいのに」、「なぜ両親はそんなに夢中になるか、理解できない」という気持ちでした。

時間がたつにつれ、自分も家庭を持ち、子育てで忙しい毎日を過ごすようになりました。知らないうちに、自分の家にも鑑賞植物が現れ、気が付けば、家のあらゆる場所に沢山の鑑賞植物が置いてあります。そして、研究室にも「癒しのコーナー」まで出現しています。プロの両親ほど育て方が上手ではないので、時々、失敗もしますが、自分なりに楽しんでいきます。

そして、あれほど敬遠していた「家庭菜園」も復活しています。夏野菜のキュウリ、トマト、ナス、ピーマンやオクラはもちろんのこと、サンチュや水菜、サニーレタス、かぶ、はつか大根、アスパラの育て方も大分上達してきました。果物も大好物なので、キウイ、イチゴ、ブドウ、ミカン、イチジク、ブルーベリーやグースベリーも育てています。それをジャムにしたり、ヨーグルトにかけたり、子供たちと一緒に食べています。カモミール、ミント、ラベンダーといういくつかの種類のハーブも栽培し、ハーブティーも楽しめるようになってきました。

家庭菜園は自分の毎日を充実させる一つの要因です。手間をかけて、大事に育てた野菜や果物は格別においしいです。このような美味しいものを与えてくれる大自然にも感謝の気持ちが出てきます。害虫や病気との戦い、暑い季節において、毎日の水やりも欠かせません。やることが沢山あるし、植物によってその特性が違うし、タイミングも異なります。しかし、手間をかけた分、応えてくれます。

植物のお世話が子育てや教育にとっても似ていると思います。皆が違うし、やるべきこと、そのタイミングも違います。ただ、愛情をもって、世話をした分、成長してくれます。植物を育てる過程で「待つこと」や「世話をすること」



筆者撮影

と」の大切さを少しずつ学べます。その喜びこそ、家庭菜園にあり、両親が夢中になった理由だと今の私なら理解ができる気がします。